

平成26年第4回吉田町議会定例会 一般質問通告

1	議席番号 6 番 枝村 和秋 議員	開始予定時刻 12月10日 午前9時
<p>【障害者福祉施策の充実について】</p> <p>吉田町では、平成26年4月現在、障害者の手帳を所持している方が1,199人います。</p> <p>その時の町民の人口が29,927人ですから、町民約25人に対して一人が手帳を持っている計算になります。</p> <p>町では、公共施設のバリアフリー化を進め、平成21年10月から総合障害者自立支援施設「あつまりーナ」を町単独事業で建設し、指定管理者により運営を行っています。</p> <p>さらに、本年4月からは、新築移転したすみれ保育園の中に発達障害児の支援施設を併設し、事業をスタートさせました。</p> <p>障害者施策のハード面では、大変、評価しているところであります。</p> <p>平成24年6月に、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律「障害者総合支援法」が公布され、これにより障害福祉サービスの対象となる障害者の範囲が拡大し、施策の充実に向けた取り組みが求められています。</p> <p>障害者施策においては、障害のある人も無い人も、全ての町民が社会のあらゆる活動に自由に参画し、その能力を最大限に発揮するとともに、互いの人格と個性を尊重し、支えあうことが重要です。</p> <p>障害者が住みなれた地域において、自立して生活できるように社会のバリアフリー化を推進するとともに、自立支援に取り組むことが必要です。</p> <p>これは、本年3月に策定された第2期吉田町障害者計画に書かれている一文です。</p> <p>平成26年度は、障害福祉計画も策定するとの事です。町の障害者施策を計画どおりに充実させていただきたく、以下質問いたします。</p> <ol style="list-style-type: none">1 施策の方向に「理解と交流の促進」とあるが、具体的にどのようなことを目指しているのか。 また、行っていれば、その内容も伺いたい。2 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスにおいて、相談支援給付があり、支給決定又は支給決定変更前にサービス等の利用計画案を作成することになっている。 他の市町では進められ、吉田町ではまだ出来ていなくて不安だとの保護者の声がある。 どう進めようとしているのか。3 平成27年4月から吉田高校跡地に、静岡県立吉田特別支援学校が開校する予定である。 障害児の放課後児童クラブの拡充が求められてくると予想されるが、対策は立てているのか。		

- 4 障害者やその関連施設を理解してもらうことや、交流の場として、障害者施設で作られる製品を役場庁舎ロビーで販売できれば、より充実してくると思うがどうか。
- 5 「あつまりーナ」は21年10月に事業開始した。
5年経過して、施設の使い勝手が良くないところもでてきていると聞いている。
どう対処しているか。
- 6 障害者相談員の研修について、県と県身体障害者福社会任せと思う。
町独自でも相談員研修を行う考えはないか。
- 7 計画では、福祉サービス等を広報誌に掲載し、周知を図るとなっている。
あまり広報されているようには思えないが。
- 8 障害福祉を充実していくには、関係団体との連携が必要と考えるがどうか。

2	議席番号 9 番	大塚 邦子 議員	開始予定時刻 12月10日 午前10時
<p>【今後の町政運営について】</p> <p>東日本大震災から3年9カ月が経過した。 沿岸部にあるわが町では、本震災後、町長は『町民の生命と企業の生産活動を守る取り組み』に着手し、これまでに15基の津波避難タワーの建設や避難路の整備、また防災公園整備などが完成、あるいは来年度の完成予定となっている。</p> <p>しかしながら、わが町の人口は現在も減少が続いている。持続可能な町政運営には、町民が安全に暮らすことができ、安心して子どもを産み育てることができ、さらには雇用の場が確保されている町にしていくことが必要ではないか。</p> <p>危急存亡の危機からの脱出には首長の資質と能力が問われてくる。 そこで、以下の点について考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人口減少社会への対応策として安心して子どもを産み育てるための政策は。 2 雇用の場を確保し定住人口を増やすための政策は。 3 危急存亡の危機からの脱出に求められる首長の資質と能力をどのように捉え、今後の町政運営に当たるのか。 			

3

議席番号 1 2 番

藤田 和寿 議員

開始予定時刻

12月10日 午前11時

【健康づくりのために健幸ポイント制（動機付けポイント）の導入について】

町は、今後の少子化と高齢化を踏まえ、誰もが「健康寿命」を伸ばすことができ、元気な高齢者が子どもや青年などとともに、地域の中で活躍できる「地域福祉社会」となるよう、『誰もが健やかで、安心して暮らせる快適なまちづくり』を目指しています。

そのために、健康づくり事業として、健康増進の場を提供し、健康診断の充実を図り、そして日々の運動や食事などの生活習慣の改善へ向けた指導など、町の取り組みが行われています。

健康は、おひとりおひとりが考え「自分の健康は自分でつくる」という意識のもと、自分にあった健康づくりを実践することです。

しかしながら、もともと健康づくりに熱心な人たちがいる一方で、健康づくりにあまり関心がない方もいることが現実であり、如何に無関心層の方たちに健康づくりに取り組んでもらうかが、重要であります。

私は、健康づくり事業や介護予防事業などの更なる促進、そして地域の活性化策として、健康づくりの動機付けを図る仕組みが必要であると考えます。

そこで、ふじのくに健康寿命プロジェクトの「健康マイレージ」支援事業や、全国の複数の市町で行われている「健幸ポイント」プロジェクトなどを参考にした事業の導入を図るのか、以下町長に伺います。

- 1 現在の健康づくり事業の進捗は、後期基本計画の目標に対してどうか。
- 2 健康づくり事業の参加者増加に向けた課題を、どのように分析しているか。
- 3 県下17市町が事業実施している「ふじのくに健康マイレージ事業」について、参加していない理由は何か。
また、来年度から参加されるか。
- 4 三島市「健幸マイレージ」や、新潟県見附市「健幸ポイントプロジェクト」などのような仕組み、動機付けポイント制事業の導入を検討しているか。
- 5 健康寿命を伸ばすために、健康づくり事業の取り組みについて、どのようなコンセプトで今後行っていくのか。

4	議席番号 1 番	増田 剛士 議員	開始予定時刻 12月10日 午後1時
<p>【PRキャラクター作成とPR事業について】</p> <p>平成26年度当初予算において、吉田町のPRキャラクター作成の費用が盛り込まれており、11月30日で公募が終了し、具体的な施策が進行していくと考えるが、PRキャラクターに関し、これまでの経緯と今後のPR事業施策について質問する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「ゆるキャラ」としてマスコットキャラクターを公認し、全国ゆるキャラグランプリ等でPR展開を行っている市町が多数ある。 当町にてPRキャラクターを作成することになった経緯は。 2 PRキャラクターの今後の活用施策は。 3 町のPR（セールス・プロモーション）の施策は。 4 吉田町商工会青年部が、「吉田まきイメージキャラクター」を既に募集し、民間事業として行っているが、吉田町PRキャラクターとの連携について町の考えは。 			

5	議席番号 3 番	山内 均 議員	開始予定時刻 12月10日 午後2時
<p>【通学路などの安全確保及び災害時のブロック塀の転倒対策について】</p> <p>11月11日、東名川尻幹線の吉田インターから国道150号までがつながりました。</p> <p>国道150号から榛南幹線の間や富士見幹線など主要幹線道路が整備されつつあります。</p> <p>通学路などの交通事故への危険性の増加に対して、再検証はなされているのですか。</p> <p>24年3月30日、文部科学省交通安全業務計画が策定されました。</p> <p>この交通安全業務計画には、スクール・ゾーンの設定の推進とその定着化が記されています。</p> <p>町は、24年12月27日、「通学路における緊急合同点検等実施要領」に沿って、吉田町内通学路の対策箇所一覧表を作成しました。</p> <p>この実施要領には、対策の実施に「防犯、防災等の側面にも留意する」と記されています。</p> <p>小学校などの通学路の安全を確保するための通学路検証では、学校とPTAが現地調査をして実状を把握し通学路を指定し、それに対し助言・提言をするのが教育委員会であり、対策箇所の改修は都市建設課であると聞いています。</p>			

文部科学省交通安全業務計画に明記された、「防犯、災害等の側面」を考慮すれば、総務課まで関係機関に組み込まれるのではないのでしょうか。

複雑な組織体系になります。

また、この業務計画を見る限りでは、教育委員会の役割が示されていると思います。

最近では、通学路にグリーンベルトが設置され、通学路の安全に対する意識が高まってきたことも感じられます。

しかし、「防犯、災害等の側面」が欠けていると思います。

グリーンベルトとブロック塀等の建造物は、相互に考慮して安全を確保することが必要です。

学校周辺500メートルの範囲でのスクール・ゾーン設置の検討やブロック塀撤去費用の補助金増額による制度の活用をより利用しやすくし、安全を確保できればと思います。

子どもを守ること、安全で安心して暮らせる吉田町を作ることは重要な責務であると思います。

そこで質問します。

1 主要幹線道路の整備に伴う全体的な通学路の検証はされているのでしょうか。

それはどのような形で町民に周知されているのでしょうか。

2 通学路指定の決定には多くの関係機関の協議が必要になります。

文部科学省交通安全業務計画を見る限り、教育委員会の役割が大きいと思いますが、どこが主体となり決定しているのですか。

プロセスとともに教えて下さい。

3 グリーンベルトの設置にはどのような基準がありますか。

優先順位はどのように決定されるのですか。

4 グリーンベルトの設置には、災害時のブロック塀倒壊等の危険を考慮しなければなりません。

学校周辺500メートル位の範囲でのブロック塀撤去費用の補助金増額は考えませんか。

5 スクール・ゾーンの設置の検討はいたしませんか。

【安全、安心なまちづくりに向けての治山、治水対策と避難対策について】

わが町には、国の一級河川大井川、県の二級河川である湯日川と坂口谷川、町の河川として大幡川、大窪川、問屋川、成因寺川、住吉川などがある。

そこで、10月6日の台風18号、10月14日の台風19号が相次いで上陸、接近した。

大雨で土砂崩れや道路、田、畑の冠水・床上・床下浸水など県内市町に大きな豪雨災害が発生した。

静岡県は自然災害として避難勧告を出され、77万4千人への避難勧告、127万人に避難準備情報が出された。

わが町にも18号台風では避難勧告、19号でも避難勧告が出された。この避難勧告について伺う。

- 1 避難勧告と避難準備情報を出すタイミングの状況と対応はどうであったか。
- 2 わが町は津波防災まちづくりなどの一環として河川改修整備を進めている。町の河川である大幡川、大窪川、第2大窪川の進捗状況と稲荷川、住吉川、問屋川の将来的な排水機場整備計画はどうされるか。
- 3 県の二級河川、湯日川、坂口谷川の護岸改修と堤防の嵩上げ、榛南地区の二級河川で唯一水門のない坂口谷川の津波防災水門の河川整備計画の進捗状況はどうか。
- 4 土砂災害危険箇所（急傾斜地崩壊危険箇所）を県が見直し、特別警戒区域が町内に6カ所の指定があると先日新聞報道された。片岡横山A地区、片岡横山B地区、片岡山根地区、片岡山の腰地区、神戸向原A・B地区で、この指定地区は土砂災害防止法で崩壊した土石などで住宅が倒壊し、住民の生命や身体に大きな危害が生ずる恐れがあると指定を受けた区域と発表された。これからのこの地域への指導はどうされるか伺う。

【今後の津波対策について】

町長は、平成15年の就任以来、数々の改革や見直しを行い、変化し続ける行政課題に的確に対応してきたと感じている。

特に、3.11の東日本大震災を受けての対応は極めて迅速で、いち早く津波ハザードマップを作り上げ、平成25年度末までに15基の津波避難タワーを完成させたのは見事である。

しかし、津波対策は、道半ばであると認識しているが、今後の津波対策について伺う。

7	議席番号 4 番	平野 積 議員 開始予定時刻 12月11日 午前10時
<p>【吉田町の防災ソフト事業について】</p> <p>東日本大震災は、地震、津波、放射能漏れなどに対する多くの警告を我々に発した。</p> <p>今後30年以内の地震発生確率が87%である東海地震の震源域で生活する我々は大いなる危機感を抱いた。</p> <p>しかし、3・11から3年半が経ち、我々はその意識を忘れかけてはいないだろうか。</p> <p>高いレベルで防災意識を維持することは容易ではない。</p> <p>そのためには、絶えまない啓発と身体に覚え込ませる訓練の両輪が必要と考える。</p> <p>災害に対する「自助」、「共助」、「公助」が唱えられているが、発災時最も大切なのは「自らの命は自分で守る」その強い意志とそのための備えである。</p> <p>我々は自助に対する強い意志を持ち、災害に備える準備を進めているだろうか。</p> <p>町はそれらに対して実のある応援、支援を行っているだろうか。</p> <p>そこで、防災ソフト事業の大きな柱である「防災訓練」に関して以下に質問する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 吉田町では9月に総合防災訓練、12月に地域防災訓練、3月に津波避難訓練を実施している。それぞれの訓練の目的は。 2 目的を達成するためにどのような訓練をそれぞれすべきと町は考えているか。 3 上記に対して、現状の訓練実態を町はどのように評価しているか。 		

8	議席番号 13番	八木 栄 議員 開始予定時刻 12月11日 午前11時
<p>【少子化対策について】</p> <p>人口減少が進んでおり、少子高齢化が問題になっている中、今回は少子化対策について質問します。</p> <p>人口減少は、吉田町だけの問題ではなく国全体で考えなければならない問題ですが、地域の活力、さらには盛衰にも関わる課題であることから、吉田町としても積極的に対策を検討する必要性があり、既に実施されている対策もあります。</p> <p>吉田町の人口は、早い時期に極端に減少する事は無いと思われませんが、私がこどものころに比べると、小学校の児童数や中学校の生徒数が、かなり少なくなったと思います。</p> <p>現在吉田町は、近隣市町の中でも、豊かな町というように見られていると思いますが、今後、町の住民サービスを継続していくには、特に若い世代を中心とした、定住の促進を図る必要性があり、さらに、安心して子どもを産み育てていく環境が必要であります。</p> <p>当町ではこれらの事について、既に実施している事業もありますが、今後さらなる施策が必要ではないかと考え、以下質問します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 若年層の定住を促すために、住宅取得価格の数パーセントを交付する「住宅取得補助金」や、固定資産税の数パーセントの金額を補助金として交付する「定住促進奨励金」などの考えはありますか。 2 婚姻を促進して新たな世代を生むために、婚活支援等の考えはありますか。 3 出生率を上げるための施策としてどのような考えがありますか。 		